

ROTARY AT WORK

台湾山岳部に位置する南投県は医療施設が不足し、地域住民の疾病、死亡率が高く、その平均寿命は台湾全体での平均寿命より約一〇年短いそうです。このような状況下で地域医療を担っている病院への移動診療車の贈呈であり、式典には医療関係者、台湾の関係地区ガバナーをはじめ、各クラブ会長、会員が出席。台湾のテレビ局、新聞各社も取材に訪れ、夕方のニュース、翌日には台湾の大手新聞四紙に記事が掲載されました。

日本の小規模なクラブでは国際交流や海外での支援活動を体感する機会は少なく、クラブ会長（当時）として式典に臨めたことは、ロータリアンとして名誉なことでした。

（角橋徹・記）



現地のニーズを踏まえて移動診療車を寄贈

命のロータリー
キッチンカー、キックオフ

人吉ロータリークラブ
第二七二〇地区・熊本県

当地区の「熊本・大分地震復興支援プロジェクト」の一環で、クラブが準備を進めてきたロータリーキッチンカーが完成し、四月一五日、熊本県益城町にある県内最大の仮設住宅団地「テクノ仮設団地」（約五〇〇戸・一三〇〇人が入居）を訪れ、温かい食事を入居者に振る舞ってきました。また、五月二〇日のクラブ創立六〇周年記念式典で、地区内外のロータリアンに、キッチンカーを披露しました。

熊本地震から一年。この間、本田節会長（当時、以下同）は、被災地に何



温かい汁物などを次々と提供

度も足を運んで復興支援に力を注いできました。そこで目の当たりにしたのは、水や電気、ガスの供給がストップし、炊き出し支援には想像を超える労力が必要だったことです。そこから、キッチンカープロジェクトがスタートしました。

四月の被災地訪問の際は当クラブのほか、芦北RC、肥後大津RC、人吉中央RC、熊本城東RC、水俣RC、多良木RC、宇土RCの各クラブから会員とその夫人ら四二人が参加協力。熊本県の小野泰輔副知事からは「地元を共にかみしめたい」、永田壮一ガバナーエレクトからは「皆さんとの絆を大切に、この事業を継続してほしい」と激励の言葉を受けました。

震災復興は道半ば。災害時に迅速に対応できる「命のロータリーキッチンカー」です。今後とも地区の皆さんに、活用してもらいたいと思います。

（塚本哲也・記）

私たちの奉仕をテーマに
I-M第四組ロータリーデー

地区I-M第四組
第二六〇地区・大阪府

地区I-M第四組に属する一〇クラブ
（東大阪RC、東大阪中央RC、東大

阪東RC、東大阪みどりRC、東大阪西RC、大阪柏原RC、大阪ネクスTRC、八尾RC、八尾中央RC、八尾東RC）は四月八日、「私たちの奉仕」をテーマにロータリーデーとしてインナーシティミーティング（I-M）を開催しました。

今回は従来通りの講演会型ではなく、各クラブが積極的に参加し、ロータリーの神髄である奉仕活動を推進させるものにとりよとの理念で企画。具体的には、各クラブが行ってきた代表的な奉仕活動の内容や問題点、成果などを発表することです。どのクラブの活動も今後の参考になるもので、意義のある内容となりました。

また、従来は講演料などに使われてきた登録料を、I-M第四組の奉仕活動として、熊本地震最大の被災地・益城



各クラブが代表的な奉仕活動を発表